

令和3年4月14日

食農学類升本早枝子准教授(リンゴ機能性表示食品開発グループ)が 公益財団法人園芸振興松島財団より第46回園芸振興奨励賞を受賞

本学食農学類の升本早枝子准教授ら「リンゴ機能性表示食品開発グループ」による「リンゴの機能性表示食品の開発」が、今後の機能性に着目した果実の普及や加工品の開発などに広く波及効果が期待されるとして、公益財団法人園芸振興松島財団 2020年度第46回園芸振興奨励賞を受賞することとなりました。

【受賞内容】

受賞者：「リンゴ機能性表示食品開発グループ」

升本 早枝子 (専門：食品機能学 栄養学)
福島大学食農学類 食品科学コース 准教授

庄司 俊彦 (リンゴ機能性表示食品開発グループ代表)
農研機構 食品研究部門 食品健康機能研究領域
食品機能評価ユニット長

三浦 富智 弘前大学 被ばく医療総合研究所 教授

吉村 正俊 東京大学 農学生命科学研究科 助教

JA つがる弘前農業共同組合指導部
青森県農村工業農業共同組合連合会開発研究部
青森県産技術センター弘前工業研究所食品技術支援部
長野県農村工学研究所農業開発研究部
長野興農被し会社営業開発部
シブヤ精機株式会社技術統括本部

受賞名：2020年度第46回振興奨励賞

業績名：リンゴの機能性表示食品の開発

【業績の概要】

升本らは、リンゴに含まれるポリフェノール的一种プロシアニジンに着目し、

肥満予防などの様々な生体調節機能について精力的に研究を行ってきました。平成 27 年 4 月に施行された機能性表示食品制度により生鮮物への機能性表示が可能となり、新たな市場の開拓や農産物の高付加価値化が期待されることから、研究成果の社会実装を目指し、産官学共同の「リンゴ機能表示食品開発グループ(代表 農研機構 食品研究部門 庄司俊彦)」を結成し、「リンゴの機能性表示食品の開発」に取り組んできました。

グループでは、機能性表示食品の届出に必要な機能性成分量を決定するため、特許「プロシアニジン類の分析方法及び分析システム」(特許第 658741 号)を開発するとともに、つがる弘前農業協同組合管内で栽培されたリンゴ約 5000 個の機能性成分量を測定し、栽培方法等による含有量のばらつきを調査し、機能性表示食品の届出の裏付けとなるデータを収集しました。また、リンゴ加工食品における、製造工程および保存期間における機能性成分の変動を解析しました。以上の成果をもとに、つがる弘前農業協同組合から「プライムアップル!」として、ふじ及び王林の機能性表示食品の届出を消費者庁に行い、リンゴ生果としては初めて機能性表示食品として受理されました。また、ジュースやドライフルーツの加工品では、長野県内の食品企業から「毎日アップル」として届出を行い受理されました。

さらに、リンゴ中のプロシアニジン量を非破壊計測によって測定する技術開発にも取り組んでおり、機能性表示食品の品質管理や、多くの農業協同組合でも届出が可能になるよう機能性表示食品の拡大に取り組んでいます。

本成果は、リンゴの生鮮および加工品における機能性表示および高付加価値化に貢献するだけでなく、今後の機能性に着目した農産物の普及や加工品の開発に広く波及効果が期待されます。

【公益財団法人園芸振興松島財団 振興奨励賞について】

公益財団法人園芸振興松島財団は、青果物の生産から流通経営にいたる調査、研究、技術開発及びその普及に対する助成、奨励、表彰等の事業を行うことにより、学術の振興と、国民の希求する青果物の安定供給を図り、明るい豊かな社会の形成に寄与することを目的とした財団です。振興奨励賞は、わが国における青果物の生産、流通および消費に関する開発・普及などの活動で、これまでに社会的成果を上げたもの、ないし今後期待されるものに授与されます。毎年、申請のあった研究課題の中から、財団設置の専門委員会の選考に基づき、1 件(該当なしの場合もある)が選ばれます。

尚、予定されていた表彰式等は、新型コロナウイルス感染拡大防止、および緊急事態宣言発令などにより、開催を見合わせました。

(お問い合わせ先)
食農学類准教授 升本早枝子
メール: saemail@agri.fukushima-u.ac.jp